

令和3年度 自己評価報告書

令和3年5月7日

学校法人タイケン学園 日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校

目次

基準1	教育理念・目標	3
基準2	学校運営	3
基準3	教育活動	4
基準4	学修成果	5
基準5	学生支援	5
基準6	教育環境	6
基準7	学生の受入れ募集	6
基準8	財務	6
基準9	法令等の遵守	6
基準10	社会貢献・地域貢献	7
基準11	国際交流	7
	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	7

評価委員

	所属	氏名
委員長	日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 校長	本田 和人
委員	日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 事務長	岡本 京子
委員	日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 教務	長藪 明子

大項目	評価項目	自己評価 優れている 3 適切 2 改善が必要 1	自己評価項目 総括	特記事項
1 教育理念・目標 人材育成像	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3	学校法人タイケン学園では、3つの建学の精神(1. 物事を科学する人材の育成、2. 質実剛健な人材の養成、3. グローバルな人材の養成)を掲げ、グローバルな感性、現代社会で勝ちぬくバランス力、政策力を持つ人材の育成を目指している。 しかし社会や業界はめまぐるしく変化しているため、その変化に対応していくには、本校の教育の内容を絶えず見直し、更新していく必要がある。 コロナの影響もあり今年度の生徒確保ができなかった。今後の方向性について早急に検討する必要がある	
	学校における職業教育の特色は何か	2		
	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3		
	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	2		
	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2		
2 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか	2	学校運営の方針は明確に定められており、学校運営の事業計画、人事、給与体制、財務管理、コンプライアンス体制が確立されている。 しかし、日々の学校運営の面からみると、絶えず社会の変化と動向に即応した柔軟な体制であるかどうかという点は、課題として挙げることができる。 理事長・校長と教職員管理者との意志の疎通及び教職員管理者と一般の教員職員との意志の疎通、この面は、本校の教育理念と目標に沿って、絶えず組織的にチェックしていく必要がある。あわせて外部委員の意見を真摯に聞くこととしたい。	
	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2		
	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3		
	人事、給与に関する規定等は整備されているか	2		
	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	2		
	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3		
	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	2		
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2		

3 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2	<p>本校の教育理念と目標に沿った教育活動を日々行っているが、社会は常に進化しているという認識を持つ必要がある。</p> <p>常にアンテナを立てて、外部の変化を察知し、新しい知識と技能の導入を継続しなければならない。</p> <p>今後の改善方策は次の三つが大事である。短期計画に組み入れることができるものと、中期計画で取組むものと両方ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しの入学応募者、及び入学生に対するきめ細かい学習支援 ・学生のキャリア形成の意欲を在学中に持たせることと生涯にわたるキャリア形成の仕組みを学内に構築し、卒業後も一対一の関係を維持していくこと。また学生相互のネットワークづくりを支援すること（卒業生ネットワークの構築） ・授業評価のシステムを学校の体制として築き、これをステークホルダーに向け本校の特色として打ち出すこと <p>また職員間で常に情報共有をしており学生全員の面倒を職員全員で見れるように常に気を配っている。</p>
	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2	
	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2	
	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2	
	関連分野の企業・関連施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2	
	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	2	
	授業評価の実施・評価体制はあるか	2	
	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	2	
	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	
	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2	
	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教育を確保しているか	2	
	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2	
	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2	
	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2	

4 学修成果	就職率の向上が図られているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得率の向上……クラス担任の卒業支援、事務部の就職支援の体制において、数値管理を取入れることを検討する。 ・退学率の低減……クラス担任だけのテーマでなく、学校挙げてのテーマとし、数値管理できるように工夫する。このため、個人管理のデータベースを構築し、指導の徹底を図る。 ・卒業生ネットワークの構築……ネットワーク構築のため、個人データベースを整備し、1年毎更新し、実効性あるシステムとする。 	就職率については、開校以来、高水準ではあるが、時代の変化とともに業種や職種の変化も現れてきており、今後はより時代にマッチした職業との関連した教育も必要になってくる。資格取得率の向上と退学率の低減も考えながら、学校重営の課題として中期計画のなかに取り入れることが重要。
	資格取得率の向上が図られているか	2		
	退学率の低減が図られているか	3		
	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	1		
	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2		
5 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	2	<p>本校で学ぶ学生に対する支援については適切おこなわれているが、今後は視点を広げ、学生の生活環境への支援、卒業後の学生への支援という面まで見ると、課題が見えてくる。</p> <p>学校職員全体のフォロー体制だけでなく、卒業生とのネットワークにおける情報収集なども構築していく必要がある。</p> <p>特に、スポーツを辞めた生徒が次に目指すことができる色々な選択肢を与えてあげられる体制づくりが必要である。</p> <p>2年間という短い在学期間のなかで、いつ方向転換をしてもいいように学生に多くの情報を与えてあげることができるように支援していかななくてはならない。</p>	卒業生就職先の業界とのつながりがさらに深まるような学生支援のあり方(卒業生のネットワークづくり等)を研究し実行することが、今後の本校には求められる。
	学生相談に関する体制は整備されているか	2		
	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3		
	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3		
	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3		
	学生の生活環境への支援は行われているか	2		
	保護者と適切に連携しているか	2		
	卒業生への支援体制はあるか	1		
	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	1		

6 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	1	本校は、少しへんびな所に位置している。校舎を含む本校の施設は、地域住民の生活と融合して存在しなければならないし、本校の学生と教職員は、地域の人たちとの共生を念頭におかなければならない。	災害発生時に本校を地域住民に開放することを前提に、地域との協議会を立ち上げることが理想。災害発生に備えた備蓄と学生教職員からなる実施可能な支援体制を地域と協力しあうことが重要。
	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	2		
	防災に対する体制は整備されているか	3		
7 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか	2	学生募集活動は、単なる定員確保のための活動にとどまらず、新入生のための入学前学習のシステムを構築する上で大きな意味をもっている。本校では、このことを当面の学校運営の課題とする。	入学前学習は、学生サービスの重要な要素である。試行錯誤もあるが、これを学校運営の短期・中期計画に位置付け、実行していきたい。
	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2		
	学生納付金は妥当なものとなっているか	2		
8 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	過去3年の財務諸表を見て、中長期的に将来を予測すれば、本校の財務基盤は安定していると見ることができる。もちろんそのためには、学生の確保と学生を送り出す業界の良好な評価があつてのことであるが、今いえることは、計画したことを着実に実行するということである。	本校の教員職員は、コスト意識が極めて高い。教員職員の背を見て育つ学生も、コスト意識が高い。この伝統は、今後も維持していきたい。
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2		
	財務について会計監査が適正に行われているか	3		
	財務情報公開の体制整備はできているか	2		
9 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	専門学校運営のための法令は適切に遵守されている。毎年の学校基本調査やその他の調査報告など、行政への届は忠実に実行している。教職員は、さらに法令遵守の意識を高めたい。	
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3		
	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2		
	自己評価結果を公開しているか	2		

10. 社会貢献 ・ 地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	世代を超えてスポーツでのつながりを社会において更に一層推進するために、地域との協働にますます力を注ぎたい。卒業生がつつぎと社会に出て業界に就業していくので、この好循環を更に拡大したい。学生だけのボランティア活動の組織化を支援するとか、学生が卒業後を視野に入れたNPO法人を立ち上げるとか、そのような社会に向けた学生の活動を、本校の学生サービスの一環として取り入れていきたい。	公開講座や教育訓練の委託などを、学校運営の中で採算が合うように実行する方策を今後とも学んでいきたい。
	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2		
	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	1		
11. 国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2	スポーツの国際交流(海外からの学生・教育の受入れ、海外への派遣等)を通じ、国際的な基準作成に、本校が先駆的な活動ができるものと考えている。又、現状では、卒業生のネットワークはなく、彼ら自身も団結の核がない状態である。従って学園としても彼らを継続的に支援できないことも、今後の大きな課題である。 いま在学している留学生が安心してここで学べるように支援をひろげていきたい。	日本古来のスポーツを世界標準とするための活動は、今後ますます拡大するものと考えられる。ネットワークの立ち上げ段階では、言葉の壁や慣習、価値観を超越するため、最大限の支援をする必要がある
	受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	2		
	留学生の学習・生活指導について学内の適切な体制が整備されているか	3		
	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2		

■学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

創業者理事長の理念を基盤として運営してきた。一方外部評価者という第三者を加えて学校の評価を行うことにより、本校の優れたところ、改善すべき課題が見えてきた。本校の優れたところを作り出すには多くの関係者が関わっており、改善すべき課題に取り組むにもまた多くの関係者が関わっていかねばならない。これらのことが明らかになってきた。よって、更に開かれた学校に向けて、前進したい。